

理事会・総会の開催

2024年6月14日、第32回理事会および第23回総会を開催しました。定款変更、役員選任といった重要な議題をはじめ、2023年度事業・決算報告、2024年度事業計画・予算が審議されました。

役員選任では、元一般財団法人国際観光サービスセンター理事長の富取善彦氏が新たに理事に就任いたしました。また、任期満了に伴い久山純弘理事、伴襄理事、廣野良吉理事の3名が退任されました。当協会の設立以来長年にわたり理事として当協会の発展にご尽力いただきましたことを心から感謝いたします。

役員選任後の会長および副会長の互選において、中村徹会長、マリ・クリスティーン副会長、浅見真副会長が選任され、麻生渡理事に引き続き名誉会長の職を委嘱することが承認されました。また、ケニアにおける各事業の円滑な運営管理を目的として、ナイロビ在住の齊藤譲氏にシニアアドバイザー兼ナイロビ駐在事務所長を委嘱することになりました。

2024年度も当協会の特色を活かした事業を積極的に展開し、支援地域の人々が自身の力で持続可能なまちづくりを進め、人々が安全で安心して暮らせるコミュニティの創造に寄与していきます。



HABIATAT 日本ハビタット協会

まちづくり通信 No.45

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

能登半島地震

マリ・クリスティーン

6月7日～10日に、能登半島地震の被災地の石川県穴水町、輪島市、珠洲市を訪問しました。新高岡駅から車で能登半島に入ったのですが、途中の道路は修復されておらず地割れや土砂崩れの跡がまだ多く残っていました。地震発生から5ヶ月を経ていましたが、復興にはまだまだ長い時間がかかるということを実感しました。地震後の人口減少も著しいようです。

● 穴水町

児童家庭支援センター「あすなる学園」では、震災当日は14名の子どもと職員5名が在園しており、全員が机の下に避難、揺れ動く机の脚を抑えながら地震が収まるのを待ち、隣接の穴水町保健センターに避難しました。その後、無事だった西棟の部屋で全員が雑魚寝をし、ランタンの灯りと備蓄食料で数日間を過ごしたそうです。現在も天井の落ちた新館は修復できず、使用中の建物も多数のひび割れが残ったままです。厨房も大きな被害があり、今は廊下に電気釜やガス台を置き、床の上で調理をし、できるだけ水を使わないように食器は紙皿にラップを敷いて使用、食後はラップを替えて紙皿は数回使いながら食事をしています。



できるだけ水を使わないようにラップを活用した食事



火災が発生した朝市通り



支援品の配布が行われている神社



液状化現象により隆起した道路とマンホール

● 輪島市

震度7以上の地震が起きた輪島市では、倒壊した多くの建物がそのまま残っており、火災が発生した朝市通りの焼け跡も片付いていません。いまだに避難所で暮らしている方々もおられ、水道が復旧していない地域もあるそうです。輪島は海岸が4mも隆起し、液状化現象も起きているため道路にも亀裂が多く見られ、マンホールが1m近く盛り上がっているようなところもありました。

復興が進まない原因を聞いてみると、「道路が狭いために解体業者が来れない」「解体申請が煩雑」「罹災証明に納得がいかない」等、様々な理由があるようです。市内の中心地にある重蔵神社境内では支援品の配布が行われていました。毎週水曜日と土曜日にボランティアの協力を得て水、食料品、日用品、衣類などが配られており、朝10時の開始前から神社には長蛇の列ができていました。仮設住宅には仕事を失い生活のめどが立たない方々も大勢いるため、今も必要な支援のようです。

輪島市内の6校の小学校は使用不能となり、その生徒たちを集めてクラスを再編成し、現在は中学校や高校を間借りして授業を受けています。子どもたちの学校行事などもかなり縮小しなければならない状態の上、公園や広場には仮設住宅が造られているため、遊び場もなく、子ども達は様々ながまんを強いられています。

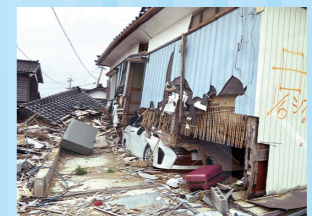
2007年の能登半島地震の時に私は地域伝統芸能活用センターの委員を務めていた関係で何度か輪島を訪問しました。復興の記念としてのキリコの行列や花火にご招待いただいた記憶がまだ鮮明に残っています。その時に感動した、電柱を地中化して昔の美しい街並みを再現した地域も今回の地震で大きな被害を受けていたことには、大きな衝撃を受けました。

● 珠洲市

珠洲市は地震当日4mを超える津波が町を襲い、市内の70%の家屋が倒壊という大きな被害が出ています。令和に入ってから「地震、大雪、地震、大雪、地震、地震、地震、津波」と自然災害が多発しており、人口が想像以上に減っていると出会った方にお聞きしました。珠洲市役所前のわくわく広場では支援品の配布が行われ、合わせて子ども縁日が開催されていました。

当協会では、皆さまから寄せられた募金を活用し、これらの地域での支援事業を今後しっかりと進めていきたいと思ひます。

※ 2024年1月1日の午後4時10分に能登半島で最大震度7(マグニチュード7.6)の地震が起き、直後に4mを超える津波が能登町、珠洲市、新潟の上越市を襲いました。



津波による被害



道路脇に横たわる瓦礫

ハビタットクイズ?!

日本では、昭和時代に「記念コイン」が10テーマ13種類発行されました。下記のテーマのうち、実際は発行されなかった記念コインが1つあります。その1つとは、どのテーマでしょうか?!

次の5つから選んでください。.....

from JAPAN



1 日本万国博覧会(大阪) 昭和45年(1970)

2 沖縄本土復帰 昭和47年(1972)

4 内閣制度創始100周年 昭和60年(1985)

3 沖縄国際海洋博覧会 昭和50年(1975)

5 青函トンネル開通 昭和63年(1988)



ご協力いただきありがとうございます

2023年12月1日～2024年5月31日

(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

会費 新聞 文彬、丹波 佐和子、内田 俊隆、原 雄次郎、笠 由美子、白澤 和子、山本 頼永、濱口 吉右衛門、秋本 敏文、中村 幸子、坂本 春生、新井 てつお、鬼木 誠、藤本 貴也、野崎 美知子、澤渡 好子、中村 勇、大橋 俊枝、三島 康雄、山際 則子、竹本 直一、マリ・クリスティーン、中村 徹、麻生 渡、山本 博子、水上 美佐子、塚越 勝美、塩川 秀敏、岡部 晃子、樋口 謙一郎、花島 光男、浅見 明子、丸井 聡、村野 啓子、富取 善彦、樋渡 子エノ

賛助会員 (学)中村産業学園、安藤 久美子、三浦 教子、竹崎 勲、堤 かなめ

ご寄附 SI- 長崎 ガーランド、花洲 真利子、板橋 亜紀、樋口 謙一郎、田路 あつ子、落合 貴美恵、中井 禮子、藤田 美江子、橋本 政和、平永 那々子、錦織 葆、水口 喜美子、丹波 佐和子、内田 俊隆、横山 寿雄、母袋 麻穂果、笠 由美子、山本 頼永、吉岡 亨子、鎌滝 たみ子、中村 幸子、坂本 春生、新井 てつお、澤渡 好子、中村 勇、館下 佳江、藤本 貴也、岡田 耕三、山本 雅子、山口 美知子、野田 泰子、兼平 剛志、福迫 隆、佐々木 佳代、山際 則子、樋口 謙一郎、堤 かなめ、丸井 聡、富取 善彦、(株)新橋スタンプ商会、(合)コドソシ、ソフトバンク(株)、三菱商事(株)

マンスリーサポーター 大下 悟、今村 稔、岡田 耕造、古庄 弘美、下村 政裕、篠原 昭子、篠原 大作、清水 雄二、藤田 美江子、美甘 政門、三島 康雄、山本 博子、山本 嘉彦、岡部 正、橋本 政和

切手・書き損じハガキ、外貨等 JSCO、日本郵船(株)、(株)日本海洋科学、郵船ロジスティクス(株)、三菱商事(株)、(株)ジェシービー、日本コンテナ輸送(株)浜松支店 / 日本営業本部 / 関西営業課、難民支援協会、(株)なつめ、(株)木下福祉アカデミーライフコミュニティ希望が丘、さくら美守り隊、SI- 太宰府、錦織 葆、上野 美穂、板橋 亜紀、宮永 武、原田 義信、田路 あつ子、橋見 次、山本 雅子、大隅 道子、宮本 知枝、曾根 梢恵、高橋 美世子、田村 光代、鎌滝 たみ子、本田 和枝、久保庭 啓一郎、佐藤 朱美、久留島 保美、今井 多恵子、中村 昌広、高橋 洋、三宮 敏郎、丹波 佐和子、佐々木 節子

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、国際協力機構(JICA)、地球環境基金、(株)EMA、(社)日本フィナンソロピー協会、パナソニック(株)、獨協大学、半蔵門駅前郵便局、(株)新橋スタンプ商会、トラベルクリエイターズ、エクステンジャーズ、インターバンク、農事組合法人シャーン・ドゥ・ミュリエ、こどもの夢ネットワーク、(株)日影茶屋、(株)ファラドール、自然食品とみや、木能美、松崎桑葉ファーム、CO-EVOLUTION、Seto Coffee、(一財)シルクセンター国際貿易観光会館、おかしマルシェ、せんだい農業園芸センター、ハビタット福岡市民の会、アジアの女性と子どもネットワーク、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

コインわけにご協力いただいた企業・学校 (株)ジェシービー、(株)電通

募金箱設置にご協力いただいた企業等 成田国際空港(株)、東京国際ターミナル(株)、北海道エアポート(株)新千歳空港事務所、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、福岡国際空港(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、長崎空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、逗子市民交流センター、(株)新橋スタンプ商会、(有)岩田時計店、AOKI、珈琲店ストーンズ

(お問い合わせ先) 事務局 〒102-0092 東京都千代田区千代田 2-12 藤和半蔵門コープ 103号 TEL/FAX: 03-3512-0355

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会 (発行責任 篠原大作 / 編集責任 山本 博子)

〒102-0092 東京都千代田区千代田 2-12 藤和半蔵門コープ 103号 TEL / FAX : 03-3512-0355

E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp

2024年7月発行

ケニア スマイルトイレプロジェクト最終報告

対象地域での野外排泄ゼロを達成!!

トイレは衛生環境を改善するだけでなく、健康の促進や貧困の削減、教育機会の提供、ジェンダー平等にもつながる「まちづくりの特効薬」です。2016年からケニア西部のホームベイ郡カボンド地区においてトイレ建設による衛生環境改善事業「スマイルトイレプロジェクト」を開始し、2019年8月からはJICA草の根技術協力事業として実施してきました。新型コロナウイルス感染症などさまざまな困難がありましたが、2024年6月に終了しました。

対象地域の4つのコミュニティ郡63村においてトイレ普及率が98%になり、野外排泄ゼロが達成され、保健省からも正式に認証されました。



住民主導の持続性あるトイレ建設

1 住民の衛生意識変革と行動変容

Community Led Total Sanitation (CLTS) 手法を用いたワークショップを実施し、計5,444名が参加しました。衛生意識が向上したことで、自発的なトイレ及び手洗い場の設置活動が行われるようになりました。



2 住民のトイレ建設技術の習得

住民に対してトイレ建設技術トレーニング及びLIXIL製簡易便器「SATO Pan」の導入トレーニングを行い、計630名が参加しました。建設技術の伝播により計2,861基のトイレと3,187基の手洗い場が住民の手により設置されました。



3 住民の所得向上

対象地域の63村にて、630名に対してバナナ栽培と養鶏技術トレーニングを実施し、さらに定期的なフォローアップを実施したことにより農業技術の習得が促されました。各世帯の事前収入調査と効果査定調査を実施したところ、現金収入増加と自給による支出削減により、所得が月500~700ケニアシリング(約600~900円)向上しました。

各家庭にトイレと手洗い場が設置されました

自分達で用意できる資材を用いて、個性的なトイレが建設されました。また、トイレを設置した家庭の内約20%において日本企業LIXILのプラスチック製便器「SATO Pan」や手洗い器「SATO Tap」を導入する家庭も増えてきました。



衛生環境の改善が、私たちの意識と生活をえています。



対象地域での下痢の罹患数が73%減少!!

トイレと手洗い場が普及するにつれ水需要が高まってきたので、家庭レベルでの給水環境改善に取り組み、集水効果の高い雨樋の設置トレーニングや貯水タンクの提供、浄水剤の導入トレーニングを行いました。給水環境が改善するにつれ手洗い場が84%になり、手洗い習慣も普及し、下痢の罹患数が激減しました。

人々にもたらしたものは...

ハビタットは住民主体のまちづくりをとっても大切にしています。本事業でも住民が各活動を通じて衛生環境改善に必要な知識や技術を習得し、最終的に野外排泄ゼロを達成したことで、自信と自立心が養われました。適切な知識や技術を身に付ければ自分達でコミュニティを良くすることができると実感できたことが大きな成果と感じています。さらに、隣人に技術を教えたり、苗木を提供したりする等の広がりが生まれており、今後住民主体でさらなる衛生環境改善が進むことを願っています。



写真左... 野外排泄ゼロを示す看板

ケニア 生理環境改善プロジェクト 女性が羽ばたけるコミュニティを目指して

ケニアでは生理や性を公に話すことはタブー視されているため、女性が適切な月経衛生対処について学ぶ機会がありません。また、生理用品は1箱約70円ですが、経済的な理由などにより生理用品を買うことができず、生理期間中に自由と行動を制限され、教育や社会活動の機会の減少につながります。当協会は生理環境改善プロジェクトを通してコミュニティにおける偏見やタブーをなくし生理による肉体的精神的負担を軽減することで、ケニアの女性が羽ばたけるコミュニティを目指しています。



自作の生理用下着を披露する中学生

女性の生理環境改善に向けた取り組み

ケニア西部ホームベイ郡カボンド地区において女性の生理環境改善のため以下の活動を行っています。

- 1 性教育及び生理用品作成トレーニング (布ナプキン、下着、石鹸)
- 2 啓発活動キャンペーン (コミュニティに存在する偏見をなくす)
- 3 女性の所得向上 (農業技術指導、家計簿導入、女性の収入管理強化)
- 4 家庭レベルの給水環境改善 (体や衛生用品を清潔に保つためにきれいな水が必要)

女性たちは知識や技術を身に付けることで...

小中学校各1校と1つの村で活動を行ったところこのような成果がありました。

- 小中学校
- ★ 性や生理に対する知識を持つ生徒 ... 30% ▶▶▶ 90%に向上
- ★ 生理用品を使えるようになった女子生徒 ... 98%に向上
- ★ 生理期間中7日間以上学校を休んでいた女子生徒 ... 70% ▶▶▶ 2%まで減少

- 村
- ★ 性や生理に対する知識を持っていた村人 ... 50% ▶▶▶ 96%に向上
- ★ 全ての女性が手作り又は市販の使い捨てナプキンを使えるように
- ★ 生理について公に話せると感じる割合 ... 30% ▶▶▶ 91%に向上
- ★ 生理への偏見や負のイメージが解消

女性たちが可能性を広げ、より良い未来を歩めるように

ラオス ラオス環境教育プロジェクト

住民が主体の環境保全

ラオス国ルアンパバーン県での環境保全の取り組みは2012年の植林事業から始まり、2018年からは小中学校を対象にした環境教育の定着と拡大を進めてきましたが、2024年3月で一区切りをむかえました。

学校と村で環境保全活動が根付く

北部農業大学(Northern Agriculture & Forestry College)と協力して、環境教育授業をはじめゴミ分別活動や有機野菜栽培、コンポスト生産の技術指導を行ってきました。環境保全への意識が高まり、また実践技術を習得したことで、学校や村で自発的な環境保全活動が行われるようになりました。その結果、事業を実施してきた13校全てがすぐれた環境保全活動を継続的に実施するようになり、さらに教育局の定めた条件を満たした学校に与えられる「グリーンスクール」に認証されました。有機野菜栽培やリサイクルから現金収入を得られるようになったことで、今後も活動が継続されていくと期待されます。

人々の意識が変わり行動変容が生まれた

この事業の最大の成果は、人々が「環境保全活動は単に自然を守るだけでなく自分たちの暮らしにも利益や恩恵をもたらしてくれること」を理解するようになったことです。そして、自主性と創意工夫が生まれ、自分たちでコミュニティを良くしていこうとする行動変容が生まれました。

ある学校では近くの川へのポイ捨てをなくすため、学校周辺の5つの村に呼びかけゴミ分別が行われるようになり、さらに自治体にも働きかけゴミ回収車が増えるようになりました。また、別の学校では家庭で出るリサイクルごみを学校に持ってくるよう呼びかけることででのゴミが減るとともに、リサイクルごみで得られる収入が上がりました。また、対象校が他の学校へ教えに行くという流れも生まれました。ハビタットらしい住民主体のまちづくりが進んでいます。

写真：上から
・ゴミ分別活動
・環境保全活動
・有機野菜の栽培活動

